



### 31 御料馬「金華山号」写真 丸木利陽

二枚

明治二十三年（一八九〇）頃

鶏卵紙

本紙四〇・四×五二・三

明治天皇の御料馬として有名な金華山号は、明治二年（一八六九）四月に宮城県玉造郡鬼首村で生まれた栗毛和種の牡馬である。旧名は「起漲」といったが、明治九年の奥羽地方巡幸の折に岩手県水沢で買い上げとなり、「金華山」と命名された。金華山号は、体高四尺九寸（約一・四メートル）と小柄な体格であったが、銃砲轟く演習地においても物怖じしない、勇猛な御料馬であった。加えて、明治天皇の足音が聞こえれば自ら天皇をお迎えする姿勢をとるなど、利発さと忠実さも併せ持っていた。

明治十三年から十三年間もの長きにわたり、明治天皇の御伴を務めた金華山号は、明治二十八年六月、老衰のために死去、間もなく天皇の命により剥製とされ、御側近くに置かれたという。金華山号の剥製は昭和三十八年（一九六三）に明治神宮に下賜され、現在は同神宮外苑内にある聖徳記念絵画館にて安置されている。

本写真は、金華山号の全身と頭部（47頁参照）を撮影したもので、当時のプリントとしてはかなりの大きさである。撮影者の丸木利陽（二八五四～一九三三）は、明治二十一年に明治天皇、翌二十二年に昭憲皇太后の御真影を撮影・調製したことで一躍有名となった写真師である。その後も皇族方の撮影を数多く手がけ、金華山号以外の御料馬の撮影にも携わっている。

本写真の撮影時期は、『厩事日記 明治二十三年』（宮内公文書館所蔵）等の諸資料から明治二十三年と考えられ、金華山号晩年期のものとして推定される。写真に写る金華山号は、明治天皇の御鞍を長年背負い続け老境に至った体躯と、優しい眼差しが印象的である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら  
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan